令和5年度　大田区立仲六郷小学校　自己評価　報告書

令和5年8月21日

○　本校の概要

学校教育目標　：　日々新しく伸びゆく仲六の子　●　なかよくする子　●　かんがえる子　●　心ゆたかな子　●　はたらく子　●　くじけない子
児童数　：　236名（令和5年5月15日現在）　　学級数　：　10学級（1年2学級　2年2学級　3年2学級　4年2学級　5年1学級　6年1学級）
概　要　：　1957年開校で、今年度で66周年を迎える。学区域には住宅のほか商店街や町工場などがあり、地域に古くから居住する世帯・住民も多い。そのため、地域から愛され、地域と学校とのつながりが深く、教育活動におけるかかわりも豊富かつ多様である。
目指す学校像　：「みんなが大好きな学校」（児童、保護者・地域、教職員）
目指す児童像　：「自分の考えを表現できる子の育成」
特色ある教育活動　：　主体的な学び　人との関わり　言語活動の充実（語彙の獲得・拡充と表現する力）　規範意識の向上　体力向上　保護者や地域と共に歩む学校

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
									評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。		◇〈児童〉 「学校生活は楽しい。」 「学校は新しいことなどにも取り組んでいる。」 と回答した児童の割合 ◇〈保護者〉 「学校は子ども一人一人を大切にしている。」 「学校は学力の定着と学習意欲の向上に向けてICT機器を効果的に活用している。」 と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれかでも70%未満			A B C D		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。								
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3：70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2：60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1：60%未満であった。								
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。								
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。								
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。		◇〈児童〉 「授業で学習したことがよくわかる。」 と回答した児童の割合 ◇〈保護者〉 「学校はわかりやすい授業に努めている。」 「学校は、習熟度別指導や補習を生かし、一人一人の学力や課題に応じた指導に努めている。」 「学校は子どもたちの読書活動が習慣化するよう工夫して取り組んでいる。」 と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれかでも70%未満			A B C D		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。								
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。								
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。								
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。		◇〈児童〉 「自分や友達のことを大切にしている。」 「すすんであいさつをしている。」 「きまりを守って生活している。」 と回答した児童の割合 ◇〈保護者〉 「やさしく思いやりのある子に育ってきている。」 「子どもたちはすすんであいさつをし、きまりを守って生活している。」 「学校は、子どもたちの問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努めている。」 と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれかでも70%未満			A B C D		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。								
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。								
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。								
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。								
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。		◇〈児童〉 「運動が好きで、進んで体を動かしている。」 「早寝・早起き・朝ごはんの生活を心がけて生活している。」 と回答した児童の割合 ◇〈保護者〉 「学校は子どもの体力の向上のために工夫して取り組んでいる。」 「子どもは早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活習慣を意識しながら生活している。」 と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て90%以上 1：いずれかでも70%未満			A B C D		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。								
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。								
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。		◇〈児童〉 「授業はわかりやすい。」 と回答した児童の割合 ◇〈保護者〉 「教員は学習活動を工夫し、わかりやすい授業づくりに努めている。」 「学校は児童・保護者にに寄り添いながら、良質な教育環境づくりに努めている。」 と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれかでも70%未満			A B C D		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。								
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。								
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。								
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。		◇〈児童〉 「学校や地域のことが好きである。」 と回答した児童の割合 ◇〈保護者〉 「学校は、各種おたよりや学校ホームページにより、教育活動の積極的な情報発信に努めている。」 「地域人材や施設等を活用した教育活動の充実に努めている。」 と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれかでも70%未満			A B C D		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。								
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。								

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。